

## 編集後記

小児循環器学会編集委員を4年間務めさせていただきました。この間に懸案であった雑誌の電子化、英文誌の発行など本雑誌の歴史上もっとも大きな変革に立ち会わせていただいたことは大きな喜びでありました。編集長は四六時中雑誌の仕事にロックオンされていて、苦労は特に傍で見ている私からはよくわかりましたが、逆に彼でなければここまでの業績は成しえなかったと思います。各編集委員は委員会に出席したときに好き勝手に意見を述べておればよいものと理解し、出席すれば意見は言うものの後半は大阪という Location から出席率が悪く迷惑をおかけいたしました。最近とみに査読およびほかの学会雑誌の editor（多くは Web 上のみ）を依頼されており、ユーザーアンフレンドリーな（と思っている）システム ScholarOne に振り回され、いったいどの論文の査読が終わっていて、どれが終わってないのか、どれを自分が査読せねばならないのかが混乱して編集者にもご迷惑をおかけしている有様です。本雑誌の編集委員が終われば少しはご迷惑をおかけすることもなくなると思いますので、これからは若い人たちが効率よく会議を行って（会議もさっさと電子化するべきなのですが、なぜか立ち上がりませんね）雑誌の運営にあたっていただきたいと思います。最後に、査読はアカデミアに住む皆様の義務であり、忙しいからと言って査読を断るのであれば学会に出てこずに病院で仕事をしていればよいと思います。時間は与えられるのでなく作るものだと思っています。

（市川 肇）